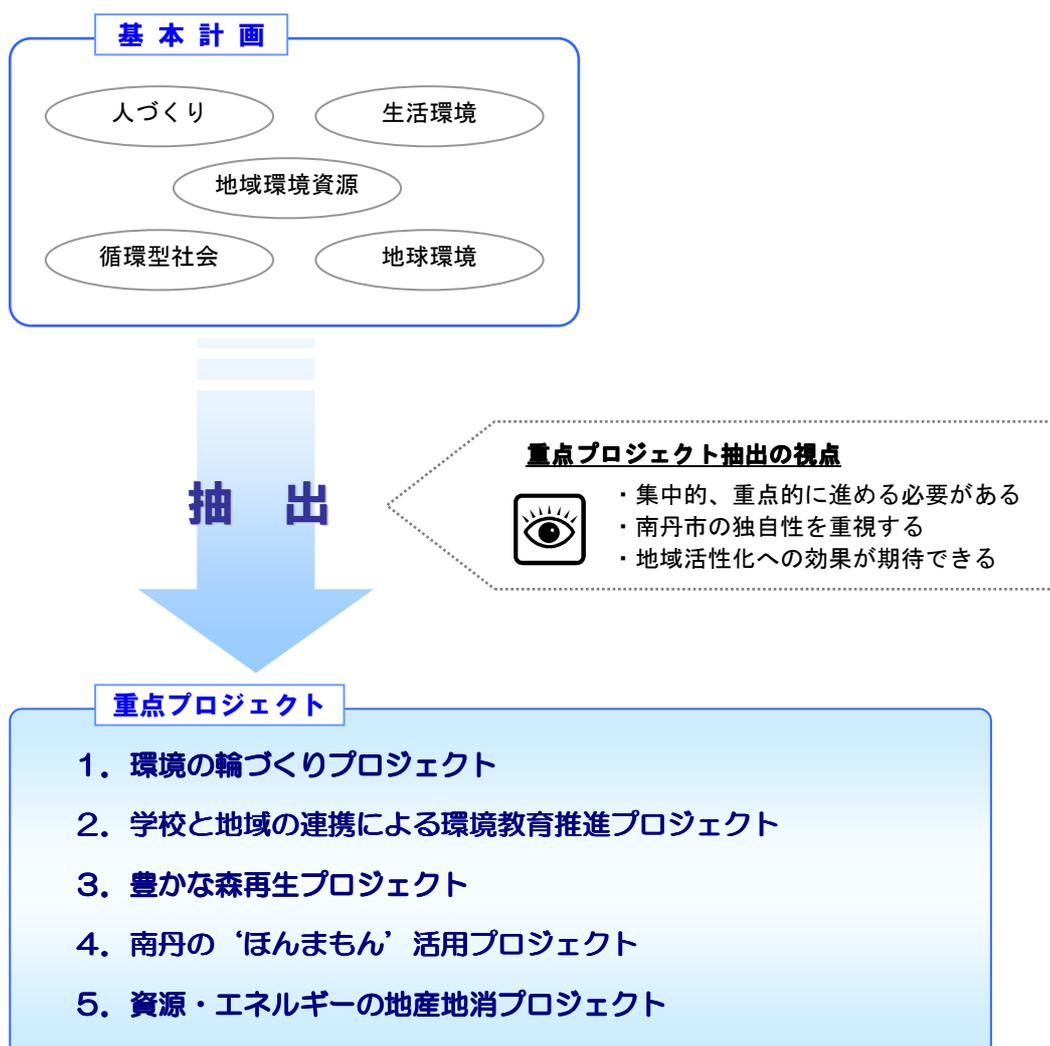


5. 重点プロジェクト

重点プロジェクトは、本市の現状・課題などを踏まえ、第4章の基本計画に挙げた取り組みの中で、特に集中的・重点的に進める取り組みです。ここでは5つのプロジェクトを設定し、優先的に取り組むことで基本計画全体の推進を図ります。



重点プロジェクト抽出の考え方

(1) 環境の輪づくりプロジェクト

それぞれの地域間、環境活動団体や環境リーダー間、市・市民・事業者間のネットワークづくりに取り組みます。環境データベースを整備し、情報の取得や提供がしやすい環境を作ります。

取り組む項目

● 市民・事業者・市の協働による計画の推進

- ・市民・事業者・市、教育機関などが協働したパートナーシップ組織を結成し、本計画の推進に取り組みます
- ・定期的にニュースレターを発行するなどして、情報を発信します
- ・公害防止協定の締結など、事業者と市が協働して環境保全に取り組みます

● 学校同士、地域同士が連携した取り組みの推進

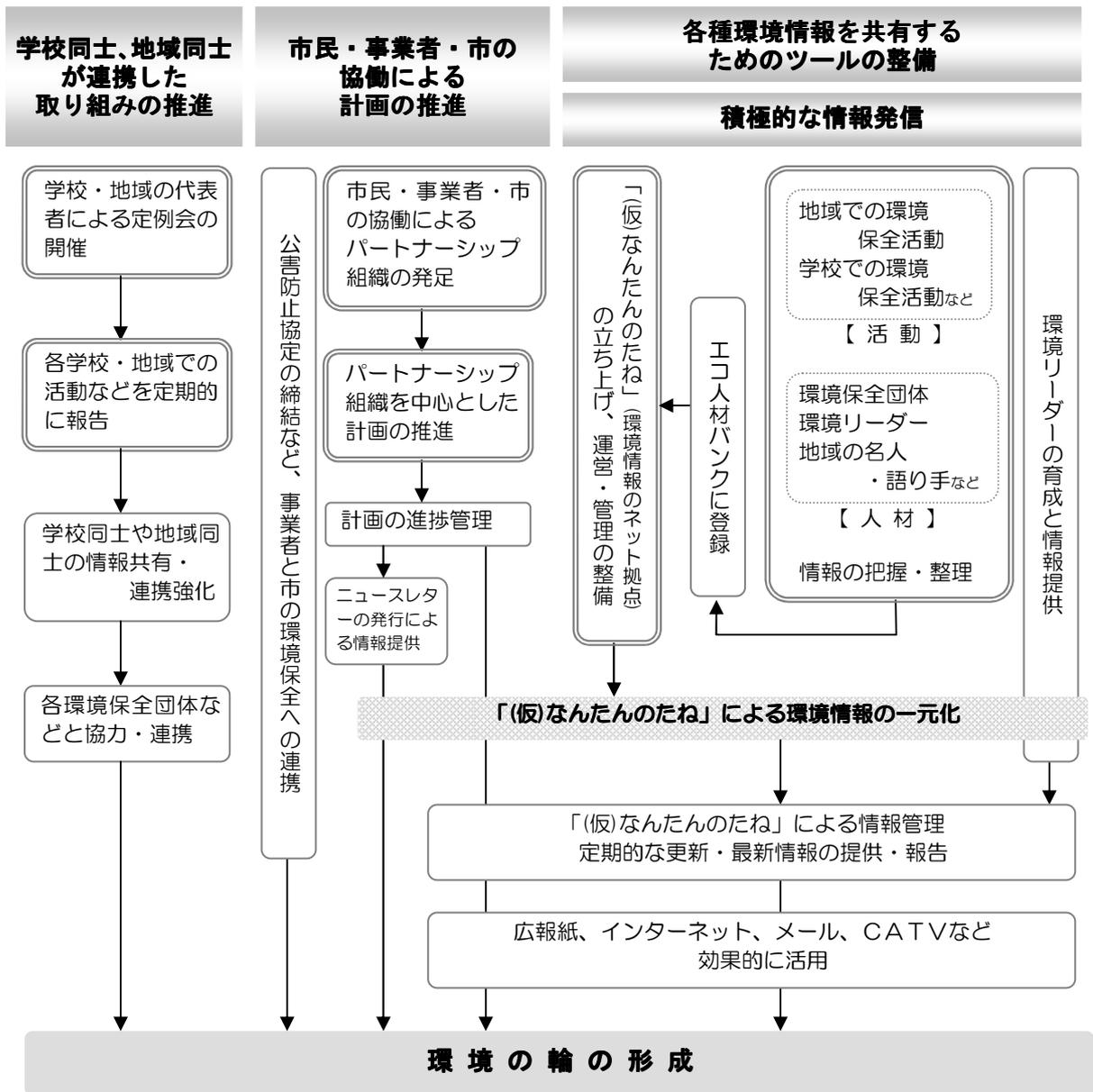
- ・学校や地域の代表者による定例会を開催するなどし、学校同士、地域同士の環境についての情報の共有し、取り組みの連携を推進します

● 各種環境情報を共有するためのツールの整備

- ・環境活動団体や環境リーダー、環境フェアや自然観察会といったイベントなど、各種環境情報を一元化し、情報管理、情報提供、検索を容易にします
- ・環境活動団体、地域の名人や語り手などを把握するとともに、環境リーダーを育成します。また、それらの情報を提供します

● 積極的な情報発信

- ・広報紙やホームページ、メール、CATVなどを活用し、環境関連情報を効果的にPRします



環境の輪づくりプロジェクトのイメージ

 : 初期段階(3年以内)に取り組むべき項目

各主体の役割

市民

環境に対する情報に関心を持ち、広報紙や「(仮)なんたんのたね」などを活用して情報収集に努め、理解を深めます。また、市やパートナーシップ組織、「(仮)なんたんのたね」運営組織などが行う情報収集に対して協力します。

事業者

環境に対する情報に関心を持ち、広報紙や「(仮)なんたんのたね」などを活用して情報収集に努め、理解を深めます。また、自社の環境に関する情報についても広く提供するとともに、市やパートナーシップ組織、「(仮)なんたんのたね」運営組織などが行う情報収集に協力します。

パートナーシップ組織への参画や市との公害防止協定などの締結により、広く連携します。

市

市の環境の状況、地域の名人・達人などの人材、環境活動などの情報を把握します。また、市民や事業者が知りたい情報を簡単に入手できるよう、「(仮)なんたんのたね」を立ち上げ、管理・運営を行います。同時に、広報紙やニュースレターなどの発行も継続して行います。

パートナーシップ組織を発足し、参画を呼びかけ、市民・事業者・市の連携を行います。

学校や地域の代表者による定例会を開催し、学校同士、地域同士の連携を図ります。

ねらい・効果

- 環境情報を整備することで、情報の取得や提供がしやすい、環境情報にあふれるまちをつくり、ネットワークづくりにつなげます。
- ネットワークづくりに取り組むことで、市全体で環境保全活動が盛り上がることをねらいます。

(2) 地域との連携による環境学習推進プロジェクト

子どもから大人までのすべての市民を対象とした環境教育を推進します。学校と地域、事業者、市との連携を強化し、地域ぐるみで環境教育を推進します。

取り組む項目

● 地域と学校が連携した環境教育の推進

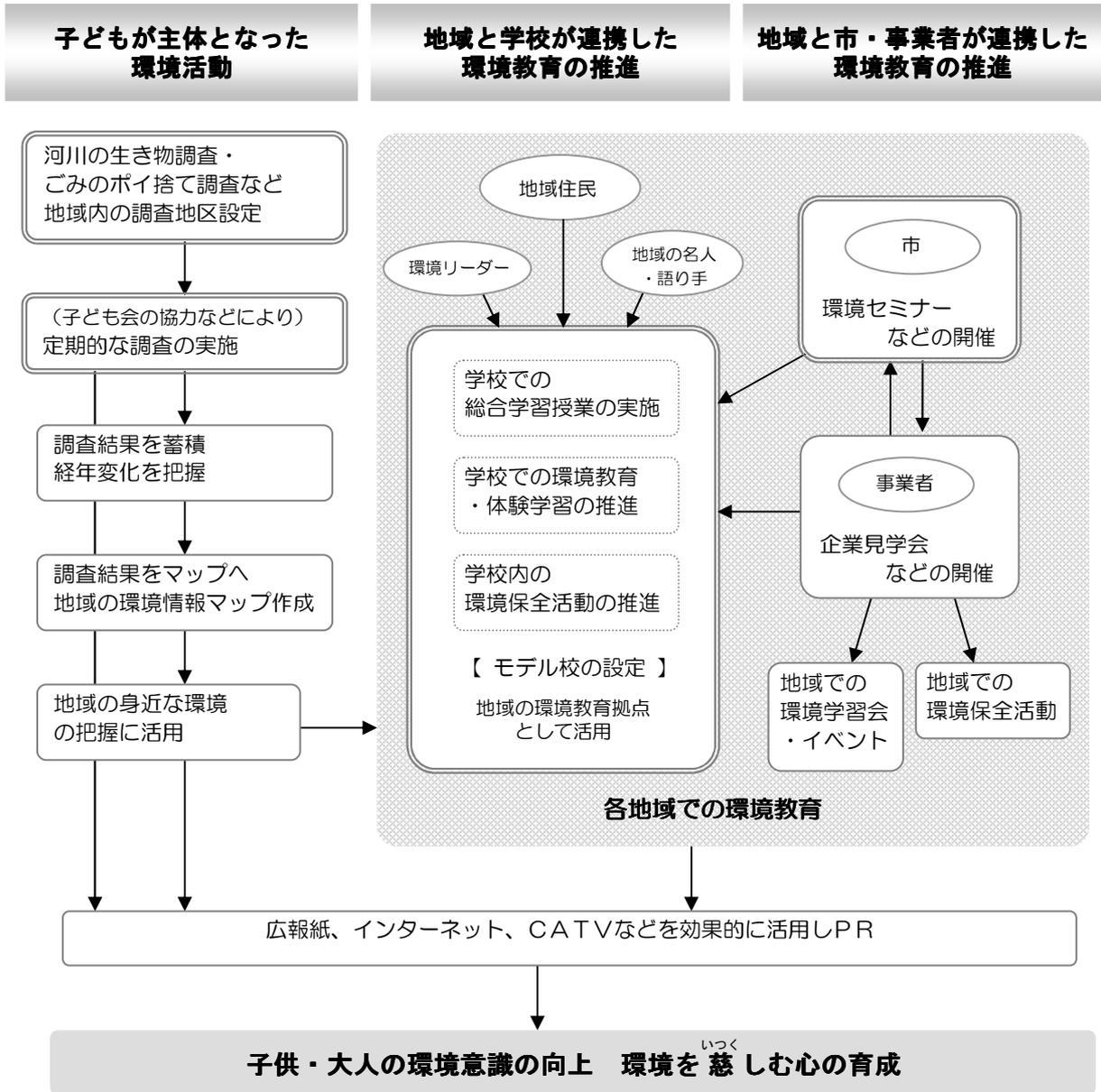
- ・学校での環境教育の取り組みに、地域住民が積極的に参加します。このため、まずモデル校を設定し、地域との協働のしくみづくりを検討します
- ・モデル校では、地域の環境リーダー、地域の名人などが学校での授業に参加し、環境教育を実施します

● 地域と市・事業者が連携した環境学習の推進

- ・市の職員が、地域での出前授業などに出向きます
- ・事業者が地域住民の企業見学の受け入れや出前授業を行うなどして、環境学習に貢献します
- ・事業者が、学校や地域での環境に関する取り組みに参加します

● 地域の子どもたちが主体となった環境活動

- ・子どもによる河川の生物調査やごみのポイ捨て調査など、身近な環境調査を定期的実施します
- ・調査結果をマップに落とすことで、身近な環境の経年変化がわかる地域情報マップを作成します



地域との連携による環境学習推進プロジェクトのイメージ

: 初期段階(3年以内)に取り組むべき項目

各主体の役割

市民

学校・地域を中心とした環境教育、環境保全活動、イベントなどに積極的に参加します。また、一人ひとりが環境に意識を傾け、環境をよくするために行動します。

また、地域の環境をよく把握するため、身近な環境調査に積極的に参加します。

事業者

学校・地域を中心とした環境教育、環境保全活動、イベントなどに積極的に参加します。また、企業見学の受け入れや出前授業などを行い、環境学習の機会を提供します。

市

学校関係者や関係機関と連携し、学校での環境教育を推進します。出前授業や出前講座などを行い、学校や地域での取り組みに参加します。

また、学校や地域の取り組み情報を、広報紙やインターネット、CATVなどで広く普及します。

ねらい・効果

- 環境意識を向上し、すべての市民が環境保全のために自ら考え、行動できる人になることをねらいます。
- 環境教育を通して、学校や事業者と市民が一体となり、連携した地域をつくります。
- 市民の環境意識の向上、連携した地域づくりに取り組むことで、他のプロジェクトも含め、すべての取り組みの推進が期待できます。

(3) 豊かな森再生プロジェクト

地域産木材や林産物を利用することで、森林の活性化に取り組み、市の豊かな森林の保全に努めます。また、市民や事業者が協働し、森林整備活動に積極的に参加する活動を推進します。

取り組む項目

● 地域産木材・林産物の利活用推進

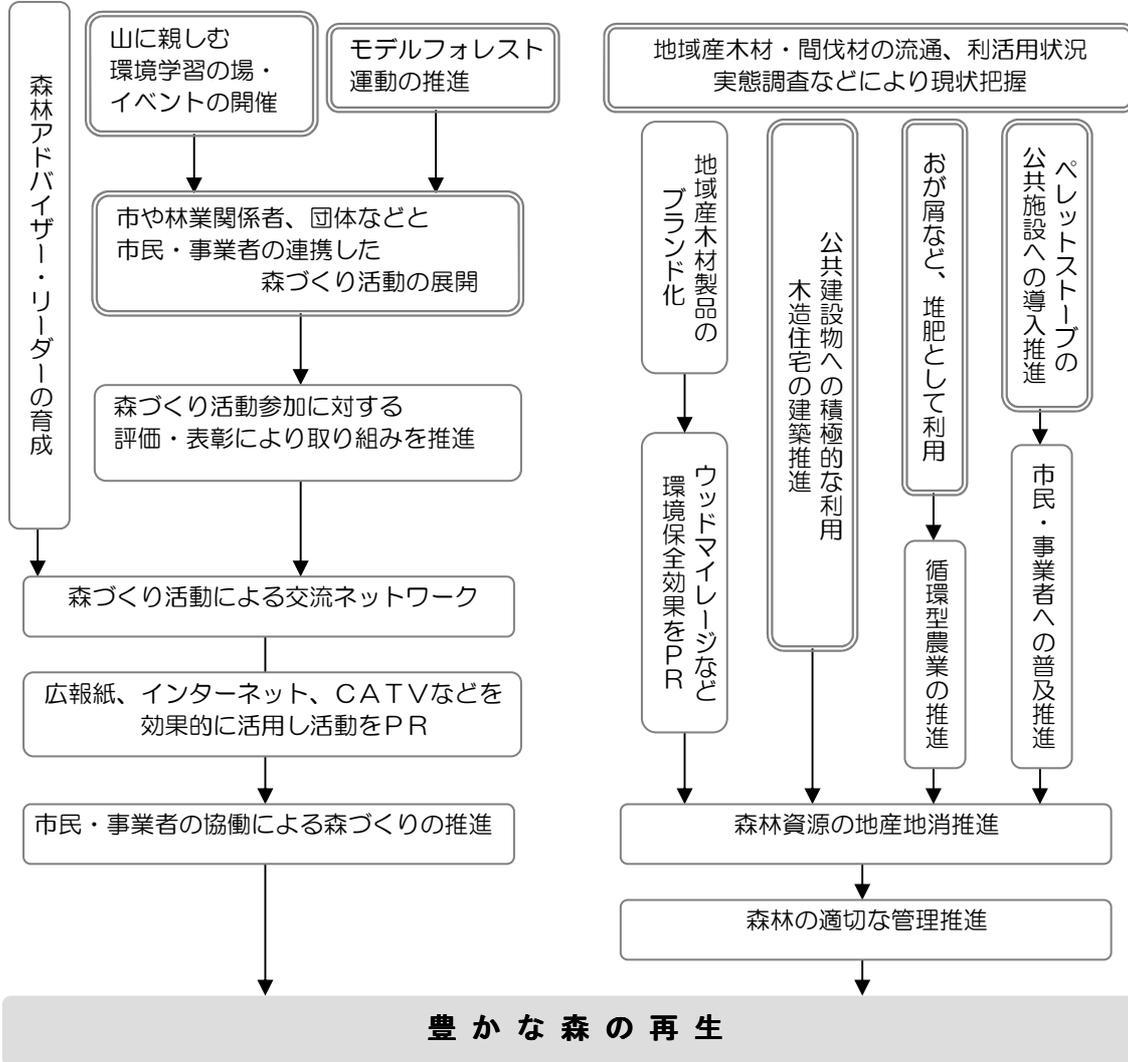
- ・ 地域産木材や林産物の市内での有効な利活用手法について研究、開発を行います
- ・ ペレットストーブの普及促進に努めます
- ・ 木屑やおが屑などを家畜排泄物とともに堆肥に利用し、循環型農業を推進します
- ・ 河川における近自然工法などに木材を利用します
- ・ 地域産材や林産物の利用が環境保全につながることを広くPRします・

● 市民・事業者の協働の森づくり

- ・ 市や林業関係者、環境団体などと地域住民が連携し、枝打ち、下刈、間伐などの管理活動を行います
- ・ 森づくり体験活動やモデルフォレスト運動を推進し、市民・事業者が森づくりに積極的に取り組みします
- ・ 森づくりに参加した市民・事業者の顕彰制度を設けるなどして、取り組みを推進します
- ・ 森林アドバイザーなど、森づくり活動のリーダーとなる人材を育成します

市民・事業者の協働の森づくり

地域産木材・間伐材の利活用推進



豊かな森再生プロジェクトのイメージ

 : 初期段階(3年以内)に取り組むべき項目

各主体の役割

市民

地域産木材や間伐材を利用した製品を積極的に購入します。また、ペレットストーブを導入したり、おが屑などを利用した堆肥なども積極的に利用し、森林資源の地産地消に努めます。
森に親しむイベントや森づくり体験、活動に積極的に参加します。

事業者

地域産木材や間伐材を利用した製品を積極的に利用・販売します。また、ペレットストーブを導入したり、おが屑などを利用した堆肥なども積極的に利用し、森林資源の地産地消に努めます。
モデルフォレスト運動や地域住民などと連携した森づくり活動に積極的に参加します。
林業関係者は、市民や事業者の森づくり活動に積極的に協力します。また、森林アドバイザーやリーダーの育成に努めます。

市

ウッドマイレージや公益的機能など、環境保全効果をPRし、地域産木材や間伐材などの地産地消を推進します。
森に親しむイベントなどを開催し、森づくり活動への参加を促します。また、市民・事業者の森づくり活動を顕彰し、活動を推進します。
林業関係者と連携し森林アドバイザーやリーダーを育成、活動を支援します。

ねらい・効果

- 自然環境の基盤となる森林を再生することにより、森林の公益的機能が高まり、河川環境の改善、有害鳥獣対策などにつながります。
- 地域産木材・間伐材の利活用を図ることにより、資源の地域内循環をねらいます。
- 市民・事業者を巻き込んだ森づくり活動に取り組むことで、協働の場、自然体験のフィールドとして森林を活用します。

(4) 南丹の‘ほんまもん’活用プロジェクト

自然の恵みを活かした地元食材や特産品、歴史・文化、貴重な動植物などを共有財産と考え、保全し、それらを活かしたまちづくりに取り組みます。また、市や関係機関と地域住民が連携し、里地里山の保全・活用に努めます。

取り組む項目

● 地域環境資源について学ぶ機会の創出

- ・地域の名人や語り手などから、地域の歴史・文化について学ぶ機会を創出します
- ・伝統食文化を継承する活動を推進します
- ・地域の環境資源をまとめ、環境読本などを作成します

● 地域環境資源の保全・有効活用

- ・地元食材の直売所や食のイベント（収穫祭など）の開催を通して、南丹市をPRします
- ・氷室の郷などを利用し、南丹市ならではの農業体験や環境学習体験をPRします

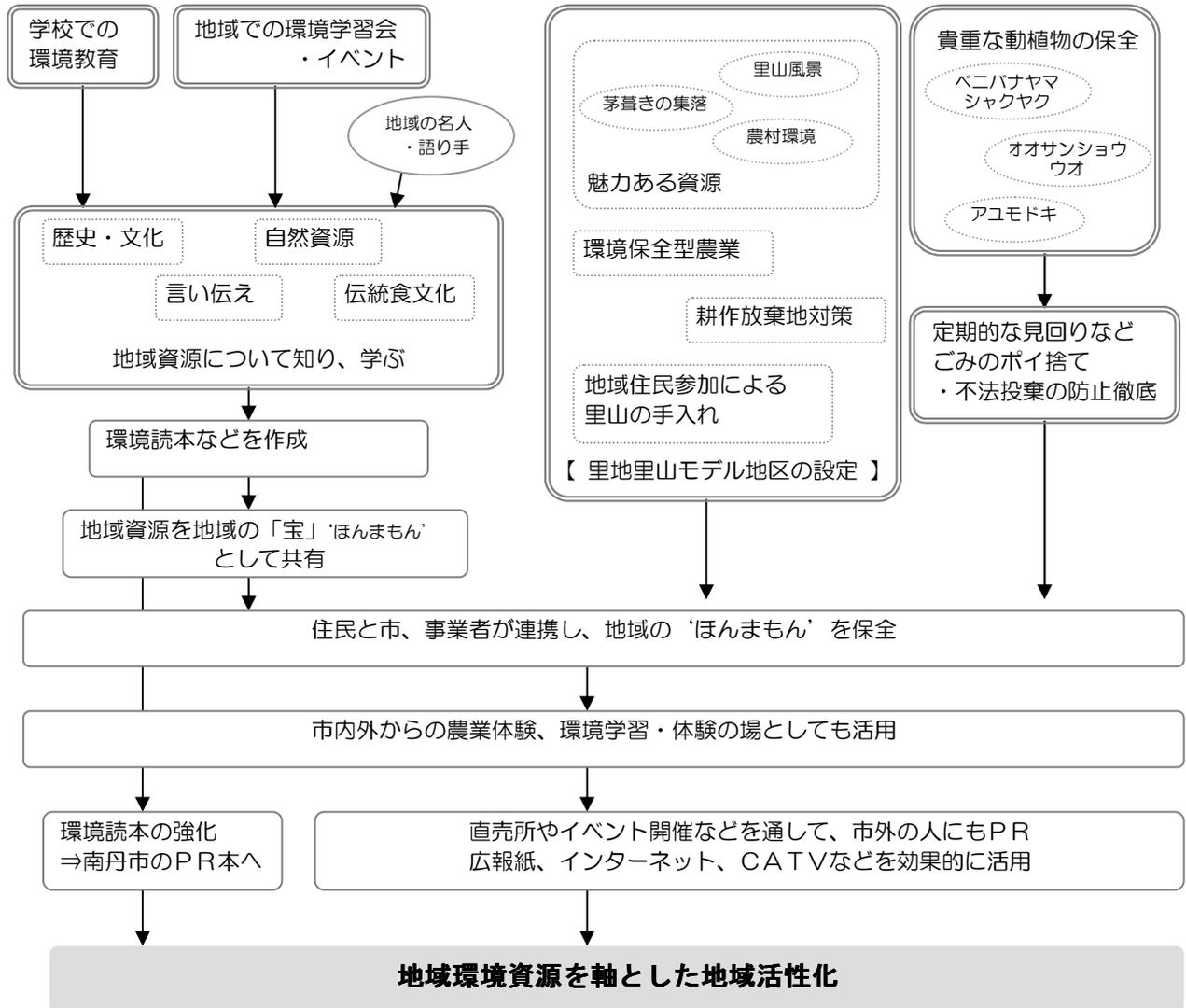
● 魅力ある里地里山の保全

- ・ベニバナヤマシャクヤクやオオサンショウウオなど、貴重な動植物の乱獲を防止し、生物多様性の保全に取り組むとともに、地域おこしにつなげます
- ・里山へのごみのポイ捨てや不法投棄の防止を徹底します
- ・関係機関などと連携し、有機農業、減農薬・減化学肥料農業を推進します
- ・耕作放棄地の増加を防ぐための有効な対策について検討します

地域環境資源の保全・有効活用

地域環境資源について学ぶ機会の創出

魅力ある里地里山の保全



南丹の「ほんまもん」活用プロジェクトのイメージ

 : 初期段階(3年以内)に取り組むべき項目

各主体の役割

市民

地域の歴史・文化、自然環境、景観、特産品や伝統食など、特有の資源について学び、その保全に努めます。また、環境読本の作成に協力するなど、これらの資源を生かした地域づくりに積極的に参加します。

地域ぐるみで貴重な里地里山風景の保全に積極的に参加します。
来訪者へのPR活動にも参加・協力し、地域活性化を図ります。

事業者

地域の歴史・文化、自然環境、景観、特産品や伝統食など、特有の資源について学び、その保全に努めるとともに、これらの資源を生かした地域づくりに積極的に参加します。

事業活動における環境への影響を把握し、抑制するとともに、地域ぐるみでの貴重な里地里山風景の保全に積極的に参加します。

来訪者へのPR活動にも参加・協力し、地域環境資源を軸とした産業と観光の振興を図ります。

市

地域の歴史・文化、自然環境、景観、特産品や伝統食など、特有の資源の保全と継承に努めます。また、環境読本を作成するなど、これらの資源を生かしたまちづくりを推進します。

地域の貴重な里地里山風景の保全を推進するため、モデル地区を設定し、地域住民・事業者参加による保全活動を支援します。

来訪者へのPR活動を行い、地域環境資源を軸とした産業と観光の振興を図ります。また、環境読本を強化し、市のPR本を作成するなど、市外の人が南丹市に興味を持つきっかけを作ります。

ねらい・効果

- 地域の環境資源をかけがえのない財産と認識し、保全することで、地域を慈しむ心を育み、環境意識の向上をねらいます。
- 地域の環境資源を活用することにより、環境保全と環境を活かしたまちづくり（環境と経済の両立）を図ります。
- 身近な自然環境（里地里山）の保全活動を通して、例えば「ササユリの美しい里」など、地域のシンボルとなる昔ながらの自然景観を形成するとともに、自然に親しむ機会を創出し、地域内のコミュニティを活性化します。

(5) 資源・エネルギーの地産地消プロジェクト

有機性廃棄物などのバイオマスの有効利用に取り組み、ごみの減量化につなげるとともに、資源の循環するまちを目指します。地域の未利用エネルギーについて、利活用に取り組みます。

取り組む項目

● 地域内バイオマスの利活用推進

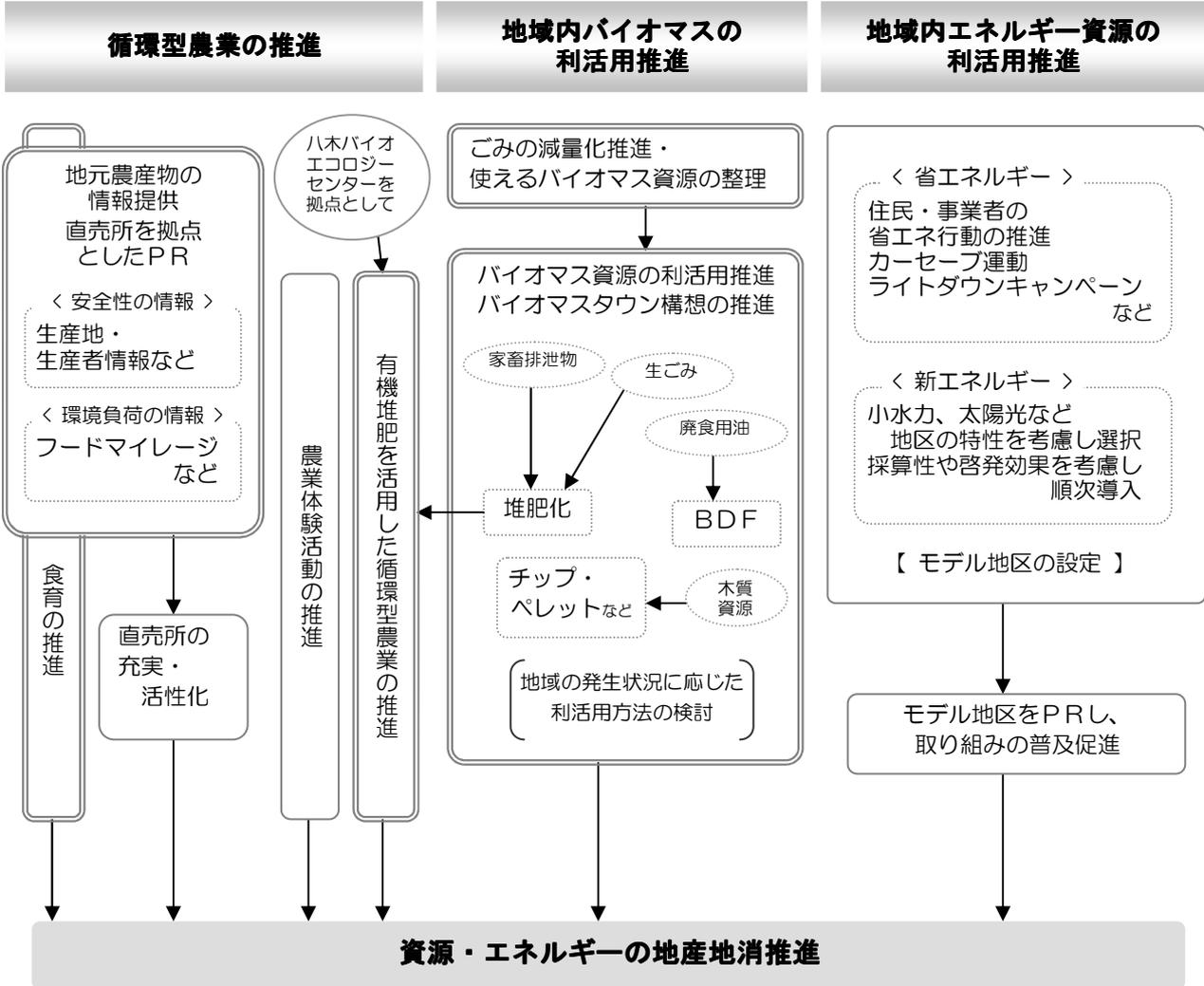
- ・ごみの3Rを推進し、ごみの減量化と利活用に取り組みます
- ・生ごみや廃食用油などの有機性廃棄物について、地域の発生状況に応じた利活用を検討します
- ・八木バイオエコロジーセンターを中心に、家畜排泄物の利活用を推進します

● 循環型農業の推進

- ・生ごみなどの有機性廃棄物について、地域の発生状況に応じて農業に利用します
- ・氷室の郷などを利用し、農業体験を通して循環型農業をPRします
- ・循環型農業による農産物などの安全性、環境負荷などの情報を発信し、食育を推進します

● 地域内エネルギー資源の利活用推進

- ・地域内の未利用エネルギーについて、賦存状況を調査し、その利活用を検討します



資源・エネルギーの地産地消プロジェクトのイメージ

 : 初期段階(3年以内)に取り組むべき項目

各主体の役割

市民

ごみの3Rに積極的に取り組み、ごみの減量化と資源の有効利用を進めます。生ごみの堆肥化や廃食用油の回収に協力します。

地元農産物を積極的に消費し、地域資源の地産地消に努めることで、環境負荷の低減に貢献するとともに、地域産業の活性化を図ります。

日常生活において省エネルギーに配慮するとともに、新エネルギーの活用に努めます。

事業者

事業活動において3Rに取り組み、ごみの減量化と資源の有効利用を進めます。生ごみの堆肥化や廃食用油の回収に協力し、また有機堆肥やBDFの利用推進を図ります。

直売所や量販店などで地元農産物を流通・販売し、消費者の地産地消への関心を高め、取り組みを推進することで、環境負荷の低減に貢献するとともに、地域産業の活性化を図ります。

事業活動において省エネルギーに配慮するとともに、新エネルギーの活用に努めます。

市

市民・事業者に対して3Rの取り組み普及を図り、ごみの減量化と資源の有効利用を進めます。地域の実情に応じた生ごみ処理方法について検討します。廃食用油の回収を進め、公用車への導入などを通し、BDFの利用推進を図ります。

地産地消についての取り組みを支援するとともに、地元農産物を給食に用いるなどして市民の関心を高め、普及推進を図ります。

市民・事業者の省エネルギーに対する意識向上を図るとともに、地域の特性を生かした新エネルギー導入について検討します。

ねらい・効果

- 資源やエネルギーの地産地消を通して、市域から排出される温室効果ガスの削減につなげるとともに、持続可能な社会の形成に取り組みます。